

評価者	健康福祉部長	内海 正彦
-----	--------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針

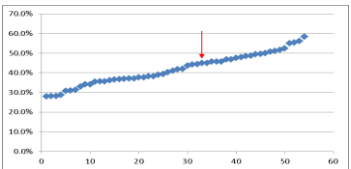
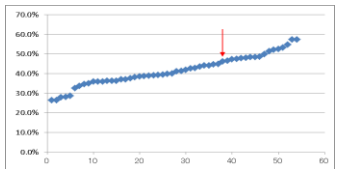
総合計画上の位置付け	分野	健康福祉	施策の方針	市民の健康と安心づくりの推進
目標とすべきま ちの姿	健診事業や健康教育が充実し、市民一人ひとりが心身ともに健康な状態で豊かな生活を送り、市民が主体的に健康づくりに取り組める環境が整備されています。 災害時の救護所の設置など、医療救護活動を迅速かつ的確に行えるような体制が整備されています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	12.3%	平成27年度	11.3%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性

お金の使い方		お金の使い方		<p><妥当性の分析></p> <p>お金の使い方、仕事の効果ともに「ちょうどよい」と答えた割合が平成27年度は46.2%と、最も多くなっている。次に多いのは、お金の使い方が「足りない」、効果は「不十分」の9.3%であるが、反対にお金の使い方が「使いすぎ」、効果は「不十分」の割合も4番目に多く、市民意識では、効果不十分という印象もやや強い傾向にあると考えられる。</p> <p>こうした傾向は経年的に変化がないことから、市民が健康で安心して生活できる事業を実施に向け、効果的なお金の使い方を再考する必要がある。</p>	
仕事の 効果	必要以上の効果	使いすぎ	ちょうどよい		足りない
	ちょうどよい	5.9%	0.5%		0.0%
	効果不十分	9.9%	45.0%		1.0%
平成26年度		平成27年度			
					
全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)					

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成26年度	23.5%	51.6%	7.3%	17.6%	100.0%
平成27年度	23.9%	53.6%	5.3%	17.2%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成27年度の目標

<保険年金課>
レセプト点検における効率的な点検の導入による医療費の適正化や保険料収納率の向上などにより国民健康保険事業の財政面での安定化を推進する。
高額療養費資金貸付事業の廃止を行う。
後期高齢者医療事業については、被保険者の経済状況を踏まえつつ、保険料収納率の向上に努め、公平性を維持する。

<市民健康課>
引き続き、鎌倉市健康増進計画を策定し、28年4月施行に向け準備する。
ゴールデンウィーク及び年末年始に小児科医を招へいし、内科と二科体制での診療を実施する。
新たに導入した胃がんリスク検診の実績を確認しながら今後の検診のあり方、手法について引き続き検討していく。
「スマホドック」の受診状況を分析し、平成28年度以降のキット健診のあり方について検討する。

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

整理番号	評価対象事業名 事業名	決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
		平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	事業内容	予算規模
健福-26	介護保険事業(特別会計)	14,714,502	14,913,932	14,858,371	15,057,149	18.8	18.3	a	A
健福-33	医療・保健関係団体支援事業	8,447	7,702	9,204	8,508	0.1	0.1	b	A
健福-34	産科診療所支援事業	104,264	82,103	105,779	83,716	0.2	0.2	b	B
健福-35	保健衛生運営事業	4,323	5,755	10,381	11,399	0.8	0.7	b	C
健福-36	救急医療対策事業	145,898	153,055	152,713	160,312	0.9	0.9	b	B
健福-37	予防接種事業	387,717	376,224	407,406	397,188	2.6	2.6	b	A
健福-38	感染症対策事業	1,363	1,164	11,207	10,033	1.3	1.1	b	B
健福-39	成人保健事業	3,539	3,455	16,413	17,162	1.7	1.7	a	B

健福-40	母子保健事業	110,754	103,469	195,568	177,649	11.2	9.2	b	B
健福-41	高齢者保健事業	105,728	109,331	138,291	143,196	4.3	4.2	a	B
健福-42	成人健康診査事業	14,642	15,960	18,428	19,185	0.5	0.4	b	B
健福-43	がん検診事業	309,830	412,045	334,063	433,009	3.2	2.6	b	B
健福-44	健康情報システム構築・運用事業	21,449	21,351	26,750	26,995	0.7	0.7	b	B
健福-45	食育事業	634	618	6,692	7,068	0.8	0.8	b	B
健福-48	国民健康保険高額療養資金貸付事業	0	0	0	0	0.0	0.0	c	C
健福-49	国保組合支援事業	78	76	839	838	0.1	0.1	a	C
健福-50	老人保健医療事業	43	0	804	762	0.1	0.1	c	C
健福-51	国民健康保険事業(特別会計)	18,379,015	21,157,514	18,510,616	21,289,376	17.3	17.3	b	B
健福-52	後期高齢者医療事業(特別会計)	4,890,151	5,023,273	4,935,032	5,068,243	5.9	5.9	b	A

(3) 主な実施内容

<p>【主な実施内容】</p> <p>< 保険年金課 > レセプト点検については、医療費請求事務に精通している者をレセプト点検員に迎えより充実した体制を整えた。(健福-51) 新規加入者などに対しては、ペイジーの導入により口座振替利用促進をすすめて、保険料収納率向上を推進した。(健福-51、52) 高額療養費資金貸付制度については、利用者がいない実態と貸付金未返還者に対する債権放棄及び不納欠損処理手続きが完了したため、2月定例会での議決を経て鎌倉市国民健康保険高額療養費資金貸付条例を平成28年4月1日付で廃止した。(健福-48)</p> <p>< 市民健康課 > 鎌倉市健康増進計画を鎌倉市健康づくり計画として策定し、平成28年3月施行した。(健福-35) ゴールデンウィーク及び年末年始に小児科医を招へいし、二科体制での診療を実施した。(健福-36) 平成27年度から、新たに胃がんリスク検診を導入した。従来のバリウム検診と比較し、身体の負担を軽減できたため、受診率の向上を図ることができた。(健福-43) 申込みから結果受取までをスマートフォンやパソコンで行う「スマホdeドック」を導入し、受診者の利便性の向上を図った。キット健診の受診率低下の原因のひとつに、郵便局での振り込みによる自己負担金の支払いにあると着眼し、利便性の悪さを解消するため、ICTを活用した「スマホdeドック」(平成27年度無料キャンペーン)を導入し、今後のキット健診のあり方を検証するための準備を整えた。(健福-42)</p> <p>【実施できなかった事業とその理由等】</p>
--

(4) 平成27年度取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

<保険年金課>

レセプト点検業務等により医療費の適正化やペイジーの導入等による保険料収納率の向上に努め、国民健康保険の財政面での安定化に一定の成果を上げることが出来たが、医療費については医療の高度化や高額な治療薬の保険認定等により増大傾向が続いており、さらなる努力が必要と考える。また、適切な保健事業を実施し、被保険者の健康維持と増進を図り医療費の適正化につなげる必要がある。

<市民健康課>

鎌倉市健康増進計画(鎌倉市健康づくり計画)を策定し、平成28年4月施行した。
休日夜間急患診療所におけるゴールデンウィーク及び年末年始に、大学病院から小児科医を招へいすることを委託先と調整し、小児科医を確実に確保し二科体制での診療を実施した。

40歳以上の市民を対象に行ってきたX線検査による胃がん集団検診を、身体的な負担が少ない採血による胃がんリスク検診に移行し、受診率の向上を図れた。

キット健診の受診率低下の原因のひとつに、郵便局での振り込みによる自己負担金の支払いにあると着眼し、利便性の悪さを解消するため、ICTを活用した「スマホdeドック」(平成27年度無料キャンペーン)を導入し、今後のキット健診のあり方を検証するための準備を整えた。

平成22年度から26年度までに実施した全予防接種の再確認を行った。不適切な事務処理に関する調査委員会の調査を受け、鎌倉市予防接種健康被害調査委員会において、誤接種の再発防止について検討を行った。

医療機関等への委託事業において行っていた請求書に係る不適切な事務処理について、不適切な事務処理に関する調査委員会の調査を受け、全委託事業について原因究明と改善策の検討を行った。

<高齢者いきいき課>

介護認定調査委託業務における不適切な事務処理の指摘を受け、すべて相手方が記入した請求書により事務処理を行うよう改善を図った。

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

<保険年金課>

国民健康保険については、医療費の増大と被保険者の健康増進が見える形で表れていないことが大きな課題であり、昨年度3月に鎌倉市データヘルズ計画が策定されたことを踏まえ、医療情報の分析により効果的な保健事業の推進と特定健診受診率の向上を図っていききたい。

<市民健康課>

市民意識調査では「お金の使い方が少ない」という回答が9%あるものの、経費のかけ方及び費用対効果が「ちょうどよい」という回答が46%超であり、総体的に見た市民の健康を維持する事業としては、かなり高い数字と言える。2025年まで高齢者の人口が増加していく状況下で、財政状況が厳しい中、限られた財源を有効的に投入していくため、事業の見直しや選択、実施方法をこれまで以上に工夫していく必要がある。

市民が健康で安心して暮らすため、健康寿命の延伸が扶助費の削減に繋がることから「健康づくり計画」を推進するために、市民一人ひとりが継続的に取り組める具体的な施策を提案する。

子どもを産み育てる環境整備のひとつとして、小児救急の充実も重要であることから、医師会と協議・調整しながら充実させていく。

市民の健康維持には、検診(健診)による早期発見・早期治療が重要であり、特に受診者の身体的な負担を軽減し受診しやすくするために新しく導入した胃がんリスク検診のフォローアップ方法等を医師会と協議・調整する。

平成27年度に無料試行した「スマホdeドック」は、28年度から自己負担金を徴取し本稼働するため、受診率等を分析し実施方法等の検証を行う。

4 平成28年度の目標

＜保険年金課＞
 国民健康保険被保険者に対する人間ドック助成制度及びインセンティブ事業として特定健診受診者に対するスタンプラリー事業を実施して、特定健診受診率の向上を目指す。(平成29年度中の特定健診受診率40%達成が鎌倉市データヘルス計画の目標である。)
 柔道整復師等からの療養費支給申請に対して、独自審査を委託することで、医療費の適正化を推進する。
 鎌倉市データヘルス計画の策定を受け、人工透析などの重症化予防について医療費データ分析により今後の対策の方向性を定める。
 後期高齢者医療事業については、引き続き被保険者の経済状況を踏まえつつ、保険料収納率の向上に努め、公平性を維持する。

＜市民健康課＞
 鎌倉市健康づくり計画を推進するため、庁内関連課及び関連機関、関連団体、市民等と連携し、具体的な事業を計画し実施する。
 ゴールデンウィーク及び年末年始に小児科医を招へいし、二科体制での診療を実施するとともに、他の診療時間帯にも小児科医又は小児科を標榜する医師を配置し、小児患者への対応を充実させる。
 成人健康診査の受診期間や受診券の案内送付について、市民の利便性を考慮しながら今後の検診のあり方や手法等を検討していく。
 「スマホドック」の受診状況を分析し、若年層への生活習慣病健診のあり方を検討する。

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ)

整理番号	健福-33	事業名	医療・保健関係団体支援事業					単位	%	指標の傾向	備考
指標の内容	LED電球の導入					単位	%	指標の傾向	↗	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
維持管理費の削減を図る	目標値	10.0	20.0	30.0	40.0	50.0	60.0				
	実績値	2.0	7.0								
	達成率	20.0%	35.0%								
整理番号	健福-34	事業名	産科診療所支援事業					単位	件	指標の傾向	備考
指標の内容	取扱分娩件数					単位	件	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
取扱分娩件数が市民ニーズ及び補助額の増減に直結するため。	目標値	265	210	210	200	180	160				
	実績値	219	217								
	達成率	82.6%	103.3%								
整理番号	健福-35	事業名	保健衛生運営事業					単位	人	指標の傾向	備考
指標の内容	ゲートキーパー養成数					単位	人	指標の傾向	↗	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
精神的な健康を保つために自身のセルフケア、身近な人へのサポート等の知識の普及啓発が必要なため。	目標値	150	200	200	200	200	200				
	実績値	462	126								
	達成率	308.0%	63.0%								
整理番号	健福-35	事業名	保健衛生運営事業					単位		指標の傾向	備考
指標の内容	健康づくり計画の推進に向けた具体的な取り組みの提案					単位		指標の傾向	↗	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
健康長寿の延伸に向け、市民一人ひとりが取り組んでもらうため。	目標値	—	—	推進	推進	推進	推進				
	実績値	—	—								
	達成率										
整理番号	健福-37	事業名	予防接種事業の向上					単位	%	指標の傾向	備考
指標の内容	予防接種率の向上					単位	%	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
予防接種法に基づく定期予防接種を公費負担することで接種率を向上し、感染症の発生とまん延を予防する。	目標値	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	0.0				
	実績値	87.7	95.0								
	達成率	97.4%	105.6%								
整理番号	健福-39	事業名	成人保健事業					単位	人	指標の傾向	備考
指標の内容	健康教育(講座、地区組織)、健康相談の参加(利用)者(64歳以下)					単位	人	指標の傾向	↗	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
地域で実施するイベント等も含め、生活習慣病予防や健診の受診勧奨等様々なことを普及啓発できた人数であるため	目標値	220	1,200	1,300	1,400	1,500	1,600				
	実績値	1,196	2,016								
	達成率	543.6%	168.0%								

整理番号	健福-40	事業名	母子保健事業					単位	%	指標の傾向	⇒	備考
指標の内容	3歳児健康診査受診率					単位	%	指標の傾向	⇒	備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	市民が受診しやすい会場の確保・健診体制の工夫が課題				
健診時の育児相談等を通し育児支援を行うとともに、虐待の予防・早期発見のため。	目標値	90.0	93.0	94.0	95.0	95.0	95.0					
	実績値	93.0	92.2									
	達成率	103.3%	99.1%									
整理番号	健福-40	事業名	母子保健事業					単位	件	指標の傾向	↘	備考
指標の内容	市内小中学校における「いのちの教室」実施数					単位	件	指標の傾向	↘	備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	目標値を下回ったが、新規の小中学校に「いのちの教室」を実施出来た。指標値は見直しを行った。				
いのちの大切さや自らのライフプランを選択・行動できる人材を育成するため。	目標値	8	10	10	15	15	20					
	実績値	8	7									
	達成率	100.0%	70.0%									
整理番号	健福-41	事業名	高齢者保健事業					単位	人	指標の傾向	↘	備考
指標の内容	健康教育(講座、地区組織)、健康相談の参加(利用)者数					単位	人	指標の傾向	↘	備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	地域で実施するイベント等も含め、生活習慣病予防や健診の受診勧奨等様々なことを普及啓発できた人数であるため(65歳以上)				
	目標値	2,100	2,200	2,300	2,400	2,500	2,600					
	実績値	2,263	1,795									
	達成率	107.8%	81.6%									
整理番号	健福-41	事業名	高齢者保健事業					単位	%	指標の傾向	↘	備考
指標の内容	機能訓練教室参加率(回数にしめる参加延人数)					単位	%	指標の傾向	↘	備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	ホームプログラムを習得することを目指しているため。				
	目標値	80.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0					
	実績値	72.8	64.4									
	達成率	91.0%	75.8%									
整理番号	健福-45	事業名	食育事業					単位	%	指標の傾向	⇒	備考
指標の内容	内臓脂肪症候群の予防や改善のための適切な食事、運動等を継続して行っているか					単位	%	指標の傾向	⇒	備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	「はい」と答えた人の割合を計上				
第2期鎌倉食育推進計画において、新規で指標を出しているため	目標値	50.0	50.0									
	実績値	19.8	23.4									
	達成率	39.6%	46.8%									
整理番号	健福-45	事業名	食育事業					単位	%	指標の傾向	⇒	備考
指標の内容	よく噛んで味わって食べるなどの食べ方に関心があるか					単位	%	指標の傾向	⇒	備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	「はい」と答えた人の割合を計上				
第2期鎌倉食育推進計画において、新規で指標を出しているため	目標値	80.0	80.0									
	実績値	42.6	67.4									
	達成率	53.3%	84.3%									

参考 前年度外部評価結果への対応

<p>鎌倉市民評価委員会からの指摘</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健診事業の充実、通常の休日夜間急患診療における小児救急の診療体制の整備が必要である。 ・主な取り組みの内容と個別事業との対応関係がわかりにくく、目標達成にむけた事業のポイントを整理する必要がある。 ・市民意識調査では「もっと力を入れるべき」の割合が高く、この背景には、災害時の問題、少子高齢化に伴う専門医療の充実が求められていると考えられる。 	⇒	<p>指摘への対応、コメント等</p> <p>救急医療対策事業においては、ゴールデンウィーク及び年末年始に大学病院から小児科を招へいし、内科及び小児科の二科体制による診療の充実を図っているところですが、更に他の診療時間にも小児科医又は小児科を標榜する医師を配置し、小児患者への対応を充実させる。</p> <p>分かりやすいように整理・工夫する。</p> <p>市民が健康で安心した生活が送れるよう、災害時の対応も含め、鎌倉市における医療の環境整備について、医師会等と協議・調整していく。</p>
---	---	--

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・市民の健康維持のため、様々な取組や新しい取組が積極的に進められた。
- ・支援や教育、システム構築など、様々な方向から目標に向けて、事業に取り組んだ。
- ・国民健康保険高額療養資金貸付事業の停止の理由を聞いて納得した。
- ・介護保険事業は国の制度改変に対応した。
- ・レセプト点検における効率的な点検の導入による医療費の適正化や保険料収納率の向上など国民健康保険事業の財政面での安定化を推進した。
- ・新たに導入した胃がんリスク検診の実績を確認した。
- ・ICTを活用した「スマホdeドック」(平成27年度無料キャンペーン)を導入し、今後のキット健診のあり方を検証するための準備を整えるなど、問題の分析と対応、対応後の効果の分析を行っている。
- ・次世代きらきらプラン(後期)にもとづき、非常に多岐にわたる事業に取り組んでいる。個別事業の効果、検証を改めて行いながら、有効な施策を推進している。

		評価の内訳								委員会の評価	
取組	↗	5	↘	0	→	3				↗	
効果	○	3	△	0	—	5	⇒			○	

《課題》

- ・サービス提供体制をより充実していくこと、利用しやすい相談・情報収集提供機能の向上などが望まれる。
- ・高齢化により、今後ますます重要になってくる施策である。今後も健康寿命増進の一助となるような取組が求められる。
- ・成人検診の受診率が指標にないが、他で調べたところ、平成21年度の34.5%以降下降傾向にあるとあった。対策として、ここに掲げられたもので十分なのか再検証が求められる。
- ・平成27年度の目標として「レセプト点検における効率的な点検の導入」を掲げ、実施事項として「レセプト点検については、医療費請求事務に精通している者をレセプト点検員に迎えより充実した体制を整えた。」とあるが、担当者に依存しているだけであり、効率的な点検の導入とは言えないのではないかと。本来の効率化が求められる。
- ・「目標とすべきまちの姿」としている「災害時の救護所の設置など、医療救護活動を迅速かつ的確に行えるような体制の整備」等についての取組が分からない。

《提言》

- ・少子高齢社会進行のなかで、健康福祉ニーズは益々高まる。取捨選択をしながら、有効な施策推進を行うべきである。
- ・健康は市民一人ひとりの自覚の問題によるところが大きい。健診事業、健康教育がおしつけにならない取組とすべきである。
- ・健康づくりの目標は健康寿命を延ばし医療費の軽減等を図ることにあると思われるので、評価指標は難しいが、他自治体をベンチマークとして目標設定をするなど、工夫をしていただきたい。
- ・特定検診受診率の達成率の向上に努めてほしい。
- ・「生涯学習」や「スポーツ・レクリエーション」などの分野と連携し、「未病」にも取り組んでいただきたい。